



経験の共有・交流

気仙沼、海の宝もの 日本—フランス紙芝居共同制作

フランスの人気イラストレーター、フロラン・シャヴエ氏が、東日本大震災の被害を受けた宮城県気仙沼市に滞在し、作家の松木直也氏と共同で紙芝居を制作しました。

紙芝居は、気仙沼市唐桑という港町で100年以上にわたり育てられてきたホヤを題材とし、気仙沼の「ホヤ大使」に任命されているフランス料理の三國清三シェフの視点から、ホヤの味覚や歴史が子ども達に語られます。東日本大震災による被害で唐桑のホヤは全滅しかけていましたが、「ホヤおじさん」と呼ばれるある生産者が、サルベージ船が海底から引き上げた瓦礫の中を何カ月も根気よく探し続け、ホヤの種苗を奇跡的に発見、もう一度ホヤを育てようと養殖を再開した物語です。

完成した紙芝居は、日本とフランスの小学校で読み聞かせ会が行われ、両国の子ども達に紹介されました。パリ日本文化会館での紙芝居の読み聞かせ会では、被災した子ども達のための復興支援をテーマとした講演会も併せて行われました。

気仙沼のホヤが「海の宝物」として大切に守られ、生産者の努力で元気に育っていることが、気仙沼市滞在中を通して描かれたシャヴエ氏の鮮やかな絵とともに子ども達へ伝えられました。



このプロジェクトに関連し、「震災復興と未来を担う子どもたちのために」と題した講演会が、2013年3月19日、パリ日本文化会館で開催された。パネラーにはシャヴエ氏、三國氏、そして気仙沼教育委員会で子どもの食育に関わっている地元酒造会社、男山本店の代表取締役、菅原昭彦氏を迎え、この紙芝居の翻訳を担当した内坂芳美氏がモデレーターを務めた

制作期間 2012年8月—10月

読み聞かせ会	日本	2012年10月22日	宮城県気仙沼市立唐桑小学校
		2012年10月23日	東京都新宿区立四谷小学校
	フランス	2013年3月19日	パリ日本文化会館
		2013年3月20日	パリ・フェリックス・フォル小学校

フロラン・シャヴエ / Florent Chavouet

イラストレーター。日本滞在中に描いたスケッチ集『東京散歩』を日仏で出版。本プロジェクトのためにフランスで行われたコンペで入選し、紙芝居を制作。

松木直也

ライター。著書に『オシャレな舌—スーパーシェフ三國清三の軌跡』（風塵社 2000年）、『ミクニの奇跡』（新潮社 2003年）ほか。

三國清三

料理研究家。フランス料理店オーナーシェフ。東北で食育を通じた被災地支援を行っている。気仙沼市より「リアスさんりく気仙沼大使・ホヤ大使」に任命されている。

紙芝居タイトル「気仙沼、海の宝もの」

絵 フロラン・シャヴエ
文 松木直也
訳 内坂芳美、コリーヌ・カンタン



国内関係者の声

このような形で自分達の取り組みを国内外で知ってもらえることは、本当に有り難いことです。

【気仙沼・ホヤ養殖生産者】

地域に対する愛着と誇りが心の支え。こうして皆さんから目に向けて貰っていると実感出来ることは、さらに大きな励みになります。

【気仙沼・読み聞かせ会参加者】